

## ■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 25–28. (2017).

### 博物館の研究成果を展示に活かす ～スマタネズミイルカの場合～

田中嘉寛(沼田町化石館)

新村龍也(足寄動物化石博物館)

Updating permanent exhibition based on research

-A case study of a fossil porpoise in Numata, Hokkaido, Japan-

Yoshihiro TANAKA (Numata Fossil Museum)

Tatsuya SHINMURA (Ashoro Museum of Paleontology)

キーワード; 研究, 教育普及, 展示計画, 特別展から常設展

#### はじめに

博物館における研究の重要性は高い。多くの館で研究が行われており、その成果は論文で発表され、展示で一般に公開される。博物館におけるこれらの研究は、博物館資料を用いて行われることが多く、結果として標本の学術的価値はより高められ、ひいては博物館そのものの価値をも高めることにつながっている。

本稿では、地域博物館である沼田町化石館が2015年から2016年にかけて行った、スマタネズミイルカの研究と、その成果の特別展、さらにはそれをベースにした常設展の一部リニューアルについて報告し、研究を行うことで、展示内容が充実する実例を紹介する。

#### 展示の紹介

##### 1. リニューアル前

スマタネズミイルカの説明をするラベルが一点、スマタネズミイルカ骨格、産状模型、復元模型、発掘現場の模型など、合計5点が展示されていた。(図1)



図1. リニューアル前の常設展. スマタネズミイルカのコーナー. The previous exhibition.

##### 2. 特別展

2015年夏、沼田町化石館のスマタネズミイルカを取り上げた特別展を博物館向かいにある地元ホテルのロビーで行った(図2)。この特別展では、当時未公表だった新しい研究成果のほかに、人と科学が融合されていることを強調した。特別展を企画した当時、スマタネズミイルカは地元にとってシンボリックな化石であるにもかかわらず、その発見・発掘か

ら30年経っており、その経緯は忘れ去られつつあった。そこで関係者の記憶をインタビュー記録として展示物し、展示解説書として残す必要があると感じられた(沼田町化石館, 2015)。この展示解説書は、沼田町化石館のホームページの他、地元図書館でも読むことができる。

今回の特別展では、沼田町化石館で進められてきた研究を、その資料であるスマタネズミイルカの第二、三標本とともに紹介した。さらにその研究からわかったスマタネズミイルカを含めたネズミイルカ科の系統図を初公開した。これらの学術的な研究成果は、特別展の翌年に、査読付き論文の形で学術誌に掲載された(Tanaka, 2016; Tanaka and Ichishima, 2016)。



図2. スマタネズミイルカの特別展の様子. Pre-version of the new exhibition at a lobby of a local hotel.

この特別展は、沼田町化石館の移動展として沼田町生涯学習総合センターと図書館で2度に渡って一時的に移設された(図3)。



図3. 図書館内に一時的に移設された特別展. The exhibition moved around before fixed to Numata Fossil Museum. It was in a library.

## ■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 25–28. (2017).

### 3. 常設展リニューアル

特別展は当初より、常設展リニューアルのベースになることを意識して作成した。リニューアルに際して、使われていなかった展示ケースを追加、また、30年近く使われた復元模型と発掘現場の模型はそれぞれ、新しい復元画と大きな発掘現場の写真に置き換えられた。結果、旧展示に比べて展示ケースと展示物数、そして展示内容(メッセージ)が増強された(後述)(図4)。



図4. リニューアルした常設展。リニューアル前(図1)と比べて展示トピックと展示物が45点増加した。The new exhibition at Numata fossil museum. Compare to the previous one, the number of contents was increased.

### 4. 新しい展示内容

リニューアルした常設展には3つのテーマがあり、「展示テーマ1. ヌマタネズミイルカの概要」、「展示テーマ2. ヌマタネズミイルカに関わった人々」、「展示テーマ3. 新しく分かつて来たヌマタネズミイルカ」である。以下にそれぞれのテーマでの内容を記す。

#### 展示テーマ1. (6点、うち新規3点)

- ・ヌマタネズミイルカの骨格: 旧展示のものをそのまま使用。
- ・ヌマタネズミイルカの産状模型: 旧展示のものを、改修、軽量化。
- ・ヌマタネズミイルカの復元画: 2015年に3D技術を用いて作成したヌマタネズミイルカの復元画(図5)。特別展からの移設。
- ・ネズミイルカの概要: 新規パネル1点。特別展からの移設。
- ・ヌマタネズミイルカと現生ネズミイルカの比較。特別展からの移設。標本を用いて、現生種の頸椎は癒合しているのに対して、ヌマタネズミイルカでは癒合しないことを標本を用いて説明した。新規にネズミイルカ頭蓋、頸椎およびヌマタネズミイルカ頭蓋、頸椎(いずれもレプリカ)をくわえた。

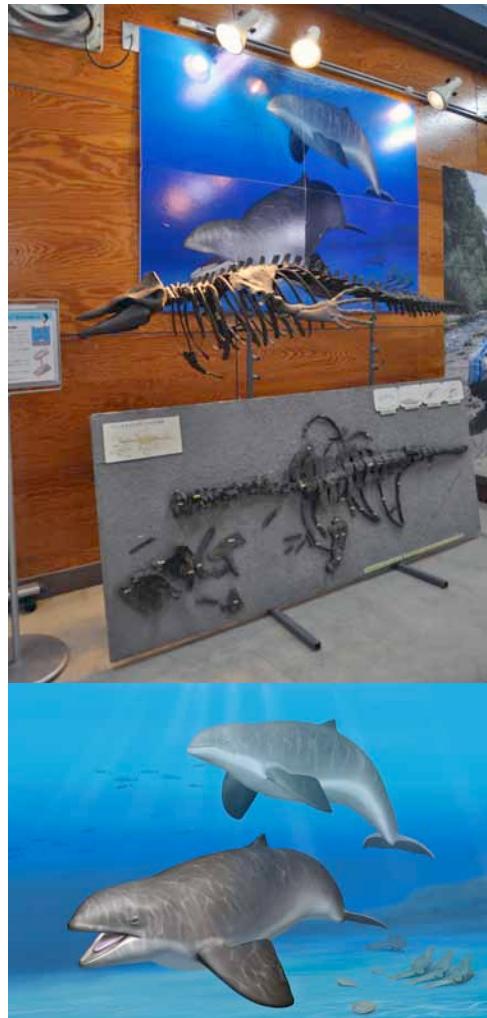


図5. 特別展の為に新たに作った復元画のパネルをそのまま常設展に移設。イルカの骨格の前におく事で、生きていた状態を想像しやすくなり、さらに展示室に彩りを添える効果がある。新村龍也作。We added a new restoration of *Numataphocoena yamashitai*. Art work by Tatsuya SHINMURA.

#### 展示テーマ2. (25点、全て新規)

- ・発掘参加者や研究者、レプリカの制作者など広くインタビューしたパネル: 特別展からの移設(図6)。
- ・発見者、故山下茂教諭の業績のパネル: 特別展からの移設。
- ・山下教諭の愛用したアンモナイトのループタイ: 特別展からの移設(図7)。
- ・発掘当時の写真: 特別展からの移設(図7)。

## ■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 25–28. (2017).



図6. 発掘参加者や研究者、レプリカの制作者など広くインタビューし、当時の記憶を記録として残したパネル。特別展から内容はそのまま、デザインだけ変更した。The fossil porpoise has studied since 1985. Involved people contributed to create this memorial corner.



図7. ヌマタネズミイルカの発見者、故・山下教諭の出版業績の紹介。地元にとって重要な教育者であり研究者であった。右は山下教諭が愛用していたアンモナイトのループタイ。  
The founder of the type specimen of *N. yamashitai*, the late Shigeru YAMASHITA is introduced with his publications and bolo tie, made from a fossil.



図8. 1985年、発掘当時の写真の展示。人と化石の関わりを紹介したかったので、人の顔が見えて、発掘の手法が分かりやすい写真を選んだ。Excavation photos in 1985.

## 展示テーマ3. (図9)

- ・第二のヌマタネズミイルカ標本
- ・ヌマタネズミイルカの系統

ヌマタネズミイルカの系統的位置は Tanaka and Ichishima (2016)で初めて明らかになった。研究に用いたレプリカを展示した。これらは、レプリカ交換などで入手した標本である。新たに追加した標本は次の通り。ヌマタネズミイルカ(*N. yamashitai*)第一標本;頭蓋、下頸、耳骨、第二標本;耳骨、第三標本;頭蓋。ハボロネズミイルカ(*Haborophocoena toyoshimai*)頭蓋、ハボロフォッシナミストウス(*H. minutus*)頭蓋、ニシノネズミイルカ(*Miophocaena nishinoi*) 頭蓋、耳骨。



図9. ネズミイルカの頭を9点集めた展示。地元産だけでなく、標本交換等で集めたネズミイルカ科化石5点。おそらく日本で最も大きいネズミイルカ化石コレクションである。

Research casts for comparison are now in the exhibition. It is probably one of the largest fossil porpoise collection in Japan.

## 考察

地域の博物館が自館の標本を研究し、オリジナルの情報を発信する意義は大きい。一般化された情報や標本を展示に取り入れるだけでは、その地域の独自性が出てこない。古生物学は、地域に根ざした学問であり(地学の一分野である)、地域の独自性を打ち立てやすい。研究を行うことによって、博物館の展示は「初公開」や「ココだけ」といった話題性が生まれる。さらに、現在進行形の研究を紹介することは、博物館が「研究」と「教育」の場であることを改めて強調できる。

また、我々は研究を反映させたヌマタネズミイルカの展示を、生涯学習施設や外部の博物館、宿泊施設などに移設した。このことによって、普段博物館に足を運ぶことが少ない人々に、博物館の存在を知らせることができる。寺田(2012)も東京大学総合博物館の「モバイルミュージアム」の取り組みで同様の考察をおこなっており、博物館のもつ資産(標本)をより多くの人々に見てもらうために館外に持ち出すことの有用性がより強く支持された。

改善点としては、展示スペースが限定的で情報密度が高いことだ。将来的に展示スペー

## ■研究報告

沼田町化石館年報 16: p 25–28. (2017).

スが拡張され、密度が緩和され、より見やすい展示となることを期待している。

### 謝辞

湯浅万紀子教授(北海道大学総合博物館)には本稿を修正する上で重要なコメントをいただいた。又マタネズミイルカの発見、発掘、研究については木村方一名誉館長(沼田町化石館)、田中三郎指導員(沼田町化石館・滝川市美術自然史館)、辻優子氏(元・沼田町化石館)、岡本佳彦校長(深川中学校)、古沢仁博士(札幌市博物館活動センター)、一島啓人博士(福井県立恐竜博物館)、篠原暁学芸員(沼田町化石館)から様々な情報をいただいた。また、多くの方から又マタネズミイルカの発見者・故・山下茂教諭について教えて頂いた。足寄動物化石博物館の澤村寛館長には、展示運営について議論して顶いた。疋田吉識博士(中川町エコミュージアムセンター)には新たに展示に追加した *Miophocaena nishinoi* のレプリカ作成および交換の便宜を計って頂いた。新たな展示物(又マタネズミイルカ第一標本 NFL7, 第三標本 NFL 2074, *Miophocaena nishinoi*, *Haborophocoena toyoshimai*, *H. minutus*)は当館のプレパレーターの谷口真弓氏、高山陽子氏に作成・着色をして頂いた。展示設営は当館の吾子博明氏、高山陽子氏の協力を得た。上記の方々にお礼申し上げる。

### Abstract

Research is vital. Especially, for local museums, studying their deposited materials and presenting academic achievements have huge significance to create unique exhibition, scientific education and so on. Here, we introduce a case study of a new exhibition, about a local famous fossil porpoise, *Numataphocoena yamashitai* in Numata Fossil Museum between 2015 and 2016. An updated exhibition increased its numbers of specimens, photos and texts from five to 45, because of having new research and interviews with researchers, local people and preparators, who involved collecting, preparation and studying since 1985.

### 引用文献

Tanaka, Y. 2016. A new and ontogenetically younger specimen of *Numataphocoena yamashitai* from the lower Pliocene, the upper part of the Horokaoshirarika

Formation, Numata, Hokkaido, Japan.

*Paleontological Research*, 20(2):105–115.

Tanaka, Y., and Ichishima, H. 2016. A new skull of the fossil porpoise *Numataphocoena yamashitai* (Cetacea: Phocoenidae) from the upper part of the Horokaoshirarika Formation (lower Pliocene), Numata Town, Hokkaido, Japan, and its phylogenetic position.

*Palaeontologia Electronica*, 19(3):48A.

寺田鮎美 2012. 次世代博物館モデルの構築に向けた東京大学総合研究博物館モバイルミュージアムの有用性の検証：三つの事例分析から。日本ミュージアム・マネージメント学会研究紀要(16):63–71.

沼田町化石館 2015. 特別展ガイドブック「又マタネズミイルカの発見、発掘、研究」。沼田町化石館。